

日本における学部間賃金格差の要因

―タスクアプローチによる検証―

前田一樹

神戸大学大学院経済学研究科

概要

本稿は、日本における高等教育修了者内の賃金格差について、学部によって就く職業に求められる業務（タスク）の差異の点から検証した。これまで、日本の大卒労働者の学部間賃金格差の検証は、理系・文系という二分法の観点から分析されてきた。しかしながら、具体的にどのような要因が学部間賃金格差をもたらすのかが明らかにされてこなかった。本稿では、各学部卒の職業に求められる平均的なタスクを計測し、1995年と2005年の個票データを用いて学部間賃金格差の分析を行った。その結果、この期間において学部間賃金格差が拡大傾向にあることが示された。賃金の分散分解の結果によれば、学部間賃金格差の拡大の主な要因は、非定型的な分析や交渉・管理といった抽象的業務に対する需要の高まりであり、一方で、定型的な業務に対する収益は低下し、非定型的な手仕事の収益の変化は小さいことも示された。これらの結果は、高等教育修了者の間で賃金やタスクの二極化が発生していることを示唆している。

キーワード：タスクアプローチ，学歴内賃金格差，学部間賃金格差

JEL 分類番号：J24, J31, I26